

決 算 審 査 意 見 書

○審査の対象 令和6年度 王滝村公営企業観光施設事業会計決算

○審査期日及び日程（1日間）

令和7年8月 5日 決算書及び事業報告書等の概要説明
書類審査

12日 まとめ

25日 講 評

○審査の手続き

決算審査にあたり、村長より提出された決算書類が、公営企業会計基準に基づいて適正に作成されているかどうかを検証するため、会計帳簿、証拠書類の照合等、通常実施すべき審査手続きを実施したほか、必要と認めるその他の審査手続きを実施し、村公営企業の経営内容の動向を把握するために計数の分析を行い、経済性の発揮及び公共性の確保等についても考察した。

○審査の結果

1. 決算諸表について

村長から提出された決算書類並びに決算付属書類について、担当者からそれぞれ説明を受け、詳細に精査・照合した結果、いずれも数値的な誤りはないものと認める。

2. 経営状況について

株式会社シシによる運営の4期目となり12月20日から令和7年4月13日まで106日間（雨等による運休はなし。水木定休4日を除く）の営業で、入り込み者数は対前シーズン比107%の38,197人となった。当初は4月6日までの営業予定であったが、積雪が多く4月12日・13日の2日間、営業を延長した。

6月末の時点で未払金が1,700万円程度に達した。未払いによる村内事業者への影響、更には経営破綻に至った場合、今シーズンのスキー場運営が厳しくなり雇用環境や宿泊事業者などに与える影響が拡大される恐れがあったため、村の産業振興資金貸付条例に基づく事業資金の貸付を受けた。費用削減が申請の条件であったため、営業開始を12月20日とし、1月中旬以降、一時的に水木曜日を定休日とすることで営業費用の圧縮を図った。

決算内容は、支出分を一般会計からの補助金で補っているため、資金不足は生じていないが、減価償却費を含めた収益収支では1億5,120万円の純損失となった。ありがとうキャンペーン終了に伴い、宿泊事業者からの要望でリフト1日券の卸価格を安く設定し、宿泊者数の増加にはつながったがスキー場の収入は減収した。当該年度末の累積欠損金は59億4,386万円となっている。

(税込) (単位：千円)

	4年度	5年度		6年度	
		金 額	対前年	金 額	対前年
事業収益	180,380	184,094	2.1	127,779	▲30.6
事業費用	329,743	348,353	5.6	278,985	▲19.9
当年度純利益	▲149,463	▲164,259	9.9	▲151,205	▲7.9
累積欠損金	▲5,628,395	▲5,792,654	2.9	▲5,943,859	2.6

3. 収益的収入(事業収益)について

決算額は、1億2,777万9千円となった。費用の内訳は、建物共済保険金130万円余と一般会計補助金である。

4. 収益的支出(事業費用)について

決算額は、2億7,898万円となった。費用の内訳は、株式会社シシへの指定管理料3,500万円、リフトなどの修繕費6,633万3千円、建物修繕費4,644万円、圧雪車・降雪機リース料9,680万円、国有地借地636万円、減価償却費1億5,171万3千円等である。

5. 資本的収支について

決算額は1,229万円となった。費用の内訳は、第4Dリフト鋼索交換855万4千円、除雪機購入費373万6千円である

6. 審査の意見

御嶽スキー場の入込客数は38,197人、前年度比107%の増加となった。スキー場内の諸施設の老朽化が進んでいるが、財政的に更新や大規模改修は厳しく、現施設で最小限の修繕で維持し入込客数の増加を図るよう、一層の企業努力が必要であると考えます。

経営においても、入込が多い週末に地域を限定してリフト券を割引する日(〇〇割)を設定したり、ありがとうキャンペーン終了に伴い、宿泊事業者からの要

望でリフト 1 日券の卸価格を安く設定するなど安売り感が否めなかった。

また、指定管理者が村の産業振興資金貸付条例に基づく事業資金の貸付を受けるなど、企業として良好な運営ができているとは思えない。村においては、経営や収支状況についても引き続き厳しいチェックを行っていただきたい。

前年度指摘した公営企業会計の特別会計等への変更は、地方公営企業法の適用除外が可能であるという県からの見解もあり移行に向けた検討を進めていただきたい。